



EBENEZER
OPERATION EXODUS

わたしの民を 慰めよ

「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——
あなたがたの神は仰せられる——」
イザヤ書40章1節





わたしの民を慰めよ

国際



ニック・コーツ
国際理事会

証人： この言葉は、10月7日以来、何度も繰り返して出てきています。

- ✓ 10月12日に、イギリスのエベネゼル理事のロッド・ラングストンとともに、ユダヤ機関を訪問して支援を示した際
- ✓ 1月9日に、他のクリスチャン団体のリーダーたちとイスラエル大使館を訪れて、ユダヤ人虐殺の45分ビデオを見た際
- ✓ 2024年2月4日から11日まで、イスラエルへの連帯旅行において、イスラエルを訪れた

イスラエル大使館は、私達がイスラエルとユダヤ人と共に立って支援している事を感謝するとともに、起こったことの真実の証人となるようチャレンジをしました。残念なことに反ユダヤ主義が台頭しているので、このことは教会にとって非常に不可欠です。

2月4日にイスラエルに向かって出発する前に、私たちはモアブ人ルツの足跡をたどっていると強く感じました。彼女は、義理の母ナオミを慰め、恥じることなくユダヤ人とともに立ちました。

「ルツは言った。「お母様を捨て、別れて帰るように、仕向けなくてください。お母様が行かれるところに私も行き、住まれるところに私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。」(ルツ1章16節)

初日の夜に、7人のエベネゼルのリーダーが5か国から集まった時、素晴らしい喜びと一致がありました。ただイスラエルにいることによって、イスラエルとともに投資しているのだという感覚でした。

10月12日に、ロッドと私は、10月7日の出来事で受けたトラウマと痛みを、涙と抱きしめあうことを通して共有しました。そして、これが初日はずっと続きました。ユダヤ機関のスタッフはダリアという方を呼び、彼女は、いかに自分の義理の兄弟ヤイルとエイタン・ホーンが誘拐され捕虜とされたかということについて詳しく話しました。

エベネゼルYoutubeチャンネルでインタビュー

ーは視聴できますが、実際にはダリアはインタビューに答えている間中、手が震えていました。これは、彼女のトラウマが継続していることを表しています。部屋には誰一人泣いていない人はいませんでした。

その後、グローバルアリヤーセンターの見学をした際、私たちは、主がこの戦争を用いてご自身の民を帰還するよう導いておられることを感じました。グローバルなアリヤーの働きの中心部の機関室であるコールセンターには、毎日800以上の電話が来ます。さらに多くのアリヤーの書類が開かれている中、今後さらにオリムが増加することを予想しています。

「ルツ」という名前の意味の一つは、「友情」です。私たちはどこへ行っても、友情が新たなものとされました。神殿の丘の警備員は、私たちがここに来た理由を伝え、「私たちはあなたを愛します」と言っていました。ユダヤ機関のある女性は、私たちが帰る時に、チームの一人一人をもう一度抱きしめてくれました。また、アシュケロンにあるエチオピア吸収センターのある独身女性は、チームに誰か独身男性がいれば紹介してください、とまで言っていました。

エルサレムに滞在中、私たちはノバフェスティバル虐殺現場を訪れる機会がありました。そこで、400人以上の人が亡くなったのです。そして、そこで起こったことについて聞き、ともに祈りました。その場所は赤いポピーでいっぱいでした。この花は、流血を思い起こさせるものですが、同時に命の約束を思い



定期的なアリヤーの最新ニュースを視聴するには、私たちのエベネゼル出エジプト作戦チャンネルをご覧ください。こちらのQRコードをスキャンしてください。



写真
上：ダリア(中央、ポスターを持っている)エベネゼルチームとともに

右：キリヤット・シュモナで、食事の準備をする



「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。——あなたがたの神は仰せられる——」 イザヤ書 40 章 1 節

起こさせるものでした。その後私たちは 23 号線を車で走り、車が銃弾で攻撃され焼かれた場所に行きました。そして、起きたことのひどさを示す車の墓場を訪れました。

イビムでは、スデロットの近くにあるキブツで、テロリストがスデロット付近のキブツに攻撃をしてきました。その後 IDF によって撃退されました。シオンという男性がキブツから出て、反対側からまわりこみ、急速に接近してきたテロリストを追い払いました。彼は英雄として見られています。そしてその通りです。しかし以前私が彼に手を置いて祈った時、彼は深い悩みをかかえていて、トラウマからの慰めと癒しが必要な状態でした。祈っていた時に、「シャローム」ということばが彼のために与えられました。その時、彼は震えて静かに泣き始めたのです。確かに、彼は、アモス書 9 章 15 節の約束を生きた人でした。

「わたしは、彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが与えたその土地から、もう引き抜かれることはない。——あなたの神、【主】は言われる。」

このことから、箴言においてソロモン王が語ったことばへ思いが向けられました。

「友はどんなときにも愛するもの。兄弟は苦難を分け合うために生まれる。」(箴言 17:17)

それが、ユダヤの丘の奥地にあるアルゴット農場にあるラビ・アリを訪れることであっても、エルサレム市長の事務所のエレナが分かち合っていたのは、エベネゼルがウクライ

ナの難民に食料物資を届けたり、ストレスを和らげるために子供たちの活動をしたりして支援していることでした。また、散らされてきたユダヤ人の家族たちがこの二つの異なったキブツにおいてケアを受けているのです。また、アシュケロン吸収センターは、10 月 7 日に 300 以上ものロケットが撃ち込まれたのが見える場所にあります。また、イエミン・オルデは、危険にさらされている十代の青年たちが、すぐれた教育とリーダーシップスキルを教えられています。そのような中で、私たちは何度も何度も、勇気、一致、弾力性、友情、愛、やそれよりももっと多くのことを見ることができました。

1 週間以上に渡って多くのことを聞いて、実際の支援をする機会はありませんでしたが、レバノンとの国境線にあるキリヤット・シュオマ(避難した町)に行くことができ、食事の準備を手伝い、ボランティアや IDF の兵士たちと話すことができたのは、大きな喜びであり特権でした。ピリピのカイザリアを拠点にしているこの働きでは、ロケットの攻撃を受けても受けなくても、毎日 500 から 1000 食の温かい食事を提供しています。

皆さんのお祈りに心から感謝します。実際にイスラエルにいるかどうかは別に、エベネゼルファミリーは、「わたしの民を慰めよ」という主の召しに、ともに参加しているのです。

「すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』」マタイの福音書 25 章 40 節



用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関 (Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人

クリタ (Klitha)

吸収を意味し、イスラエルに到着したオリムたちの生活を確立させること。ヘブライ語の学び、就職、住居、学校、IDFへの従事など。

写真 上:ノバフェスティバルにて「彼らを家に帰らせよ!」

左: イエミン・オルデにてユース村

右: ノバ音楽フェスティバルの時の車

神様は決して遅れることがない

ウズベキスタン



ザーナ
ベースリーダー

ツルメニスタン出身のケマルと妻のロサイと彼らの双子の2歳の娘たちは、イスラエルでの新しい生活を始めるべく出発しました。2023年12月25日に、彼らはウズベキスタンの首都であるタシュケントにあるイスラエル大使館でイスラエルの永住ビザを申請して、その三日後に彼らはアリヤーすることになっていました。しかし、ぎりぎりになって彼らの面会約束はキャンセルになりました。

彼らがタシュケントに着く予定の二日前になって、大使館から連絡があり、彼らのビザは1月まで受け取れないという知らせがありました。このことは問題でした。なぜなら、この家族のウズベキスタンのビザの有効期限が12月31日までだったからです。

そこで、ケマルは再度ウズベキスタンでビザの申請をすることにしました。しかし、いったん登録を消しているため、二度目の申請をすることができないと知りました。しかし、神様に感謝します!彼らは何とか大使館に行って秘書に直接事情を説明することができたのです。それで、12月28日に新しく面接の約束を受けることができました!

彼らは午後11時にタシュケントに到着したばかりで、とても疲れていました。ウズベキスタンとツルメニスタンの間には長年航空通信が途絶えていたため、彼らは陸路を通過して国境を越えました。その後、私たちは彼らをホテルへと案内しました。翌日、彼らをユダヤ

機関へと送りました。そして、その後に大使館へ連れて行く予定でした。

領事の秘書が来られ、ビデオで領事と連絡を取りました。そこで領事は家族全員と会い、書類に目を通しました。その後、秘書はその書類を大使館へ持って行き、家族はユダヤ機関に残りました。このような形の面会は初めて見ました。

神様に感謝します!ケマルの家族はビザを取得することができました!その後、私たちはすぐに12月31日の航空券を予約しました。ウズベキスタンビザの有効期限の最終日にです。その前の二日間は航空券が取れなかったのです。その日は安息日でした。しかし、神様は決して遅れることはないことは確かです!

この4人家族はイスラエルに無事到着し、報告によれば、彼らはイスラエルがとても気に入っているようです。神様がご自身の子もたちを故郷に帰らせてくださったことを感謝し、すべて神様に栄光をお返しします!

どうかお祈りください:

- ✓ ・エベネゼルチームに力、健康、知恵が与えられるように
- ✓ ・ウズベキスタンとツルメニスタン間の航空通信が回復するように
- ✓ ・イスラエルのための祈りのグループが、私たちの地域の教会、漁業従事者などの間で増やされるように



写真
右:ケマル、ロサイ、と彼らの双子の娘たち





一人のいのちの旅

ターニャの父親は軍人で、第二次世界大戦で戦いました。彼女の母親はユダヤ人ではありませんでした。そういうわけで、彼らは、多くのユダヤ人たちが命を落としていた中でも、恐ろしい時代を生き延びることができました。彼女の父親は英雄となり、戦後も亡くなりました。

ターニャは、戦中、戦後に亡くなった多くのユダヤ人の家族のことについて私たちに話してくれました。

90年代には、ターニャはイスラエルに行きたいと願っていましたが、夫が行かないと決めました。彼女は、もし、彼が当時にイスラエルへ行っていたら今でも生きていただろう、と言っていました。

2年前に、ターニャはもう一つの戦争を体験しました。彼女の故郷の町、ホロドニアの状況は不安定で危ない状況だったため、娘が、母親のイスラエル帰還を助けるために訪ねてきました。そして、昨年、娘と娘の夫は無事アリヤーすることができました。彼女の高齢の母の3匹の猫を運ぶ助けをしながら、彼女は、ウクライナに帰らなかったことを感謝していました。

ターニャは長年英語と文学の教師をしてい

ました。彼女は多くの本と持ち物の大部分を同僚や近所の人や友人たちに残して来ました。それは、彼女が人生をかけて投資して集めた蔵書を彼らなら大切にしてくれると思っていることでした。

彼らはエベネゼルとウクライナのエベネゼルチームにとっても感謝していました。エベネゼルチームは、彼らのポーランドへの移動や他の必要な支援をすることができました。彼らが信じていることは、主が彼らを真の故郷の地へと帰らせてくださるなら、その地で主が彼らを祝福してくださるということです。彼らの旅は快適でした。彼らは、ワルシャワのホテルで一泊してから、カジックと私は彼らを空港へ送りしました。

猫とその所有者たちは無事イスラエルに到着しました。そして、彼らの最初の書類を受け取りました。ただ、長旅のストレスのためか、猫の一匹がかごから逃げようとしていましたが、娘と義理の息子と合流できて、ターニャは喜んでいました。彼女はイスラエルでの新しい生活を始めました。彼らは私たちに、イスラエルにいつでも遊びに来てくださいと招待してくれました。すべての栄光が神様にありますように！

ポーランド



ケート
ポーランドチーム

写真
上:ターニャと娘とケートとカジック

左:空港でのチェックイン

右:ターニャ、イスラエルにて



民の代わりに神の前に

祈り



フィオナ・スタッケン
アジア太平洋祈りのコーディネーター

あなたを圧迫する者たちへの神の力強い裁き、小羊の血潮、そして奴隷の束縛からの解放—イスラエルの子どもたちの一人として生きるには何という驚くべき時代でしょうか！

何か月かの短い期間に、モーセは主の召しに従って同胞のイスラエル人をエジプトからシナイの荒野へと導きました。そしてその間に、権威の杖を取って、食料と水の備え、そして敵に対する勝利を見たのです。

彼らがシナイ山に着いた時、モーセは義理の父イテロに会い、彼からいくつかの賢明な言葉を受け取りました。そのことはまた、イスラエルの指導者としてのモーセの主要な責任を明らかにするものでした。

「さあ、私の言うことを聞きなさい。あなたに助言しましょう。どうか神があなたとともにいてくださるように。あなたは神の前で民の代わりとなり、様々な事件をあなたが神のところに持って行くようにしなさい。あなたは掟とおしえをもって彼らに警告し、彼らの歩むべき道と、なすべきわざを知らせなさい。」出エジプト記 18 章 19, 20 節

モーセの最初の召しは、「民の代わりに神の前に立つこと」でした

イテロはモーセに忠告して、彼は自分の下にいる人の中から、彼が裁きを行うための助けをするように任命しなさいと言いました。しかし、モーセの最初の召しは、「民の代わりに神の前に立つ」ことでした。

その後すぐ、モーセは山に上って神と出会いました。そこで、主はモーセに、イスラエルの民が奴隷から解放されて神の元に来た今、イスラエルの民の行く先をします。

『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを驚の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語らなければならないことばである。」

出エジプト記 19 章 4 – 6 節

主の心の叫びは、ご自分の民を「特別な宝」として、親密な愛の関係の中に置くことでした。そして、彼らが、神の契約を守り、聖なる国民として神に仕えることでした。神の契約は、「律法」以上のものでした。(まだ与えられていませんでした) この契約は、土地と、神様との関係を受け取る約束でした。主の意図は、彼らが神の元に来て、神に仕えることでした。

私たちは、このことがその時にすべて成就したのではないとわかります。しかし、パウロは言っています。

「神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。」ローマ書 11 章 29 節

ペテロは、イスラエルにつなぎ合わされた私たちもまた、この働きに霊的な意味において加えられたと書いています。

「主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。」

あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。」

第 1 ペテロ 2 章 4, 5, 9 節

イエシュアを信じる者として、私たちは「聖別さ

イエシュアを信じる者として、私たちは聖別されています

れ」、賛美と感謝のいけにえをもって主に仕えるように、また主の前に立って、私達の祈りを香として主にささげるように召されています。

黙示録 5 章 9 – 10 節において、この召しが、天のみ使いがイエシュアに新しい歌を歌う時に、栄光に満たされて完成する事について私達に啓示されています。

立つ



「彼らは新しい歌を歌った。『あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。』黙示録 5 章 9-10 節

最終的に、「すべてのイスラエルが救われる」（ローマ書 11:26）時、私達はともに、天の父が願っていたご自身の「特別な宝」と聖なる国民が共に親密な愛と、揺るがない交わりの中で、祭司として主に仕えるという事が実現されるのです。

イエシュアはご自身の永遠の栄光を捨てて人として私達と同じようになられ、ご自身を私達の罪の為にいけにえとして捧げて下さったのです。

この方の私達の為のとりなしは、祈り以上のものでした。主は私達の贖いの為にご自身の命を代価として下さったのです。そして、ご自身の死と復活を通して完全な勝利をとられたのです。そして主は私達の為に、父なる神の前で、私たちの「大祭司」としてとりなしを続けてくださっているのです。

主は、アロンに、主の前でイスラエルの祭司として仕える時に、特別な衣を着るように指示を与えられました。その一つが、「さばきの胸当て」（出エジプト記 28 章）です。

胸当てには 12 の宝石が埋め込まれていて、一つ一つにイスラエルの 12 部族の名前が彫り込まれています。肩には、二つの縞めのうの石があり、そこにイスラエルの息子たちの名前が

刻まれます。そのようにして祭司はイスラエルの息子たちの名前を、主の前で仕える時にはいつでも、彼らの肩と心に携えるのです。

主の天におけるとりなしの働きにおいて、確かにイエシュアはイスラエルの国、ユダヤ人、そして私たちすべてを、恵みの御座の前に運んでくださいます。そしていつもご自身の流された血潮の力によって、天の父のみこころの目的を成就してくださるのです。

私たちが主の足跡をたどる中、エベネゼルにおいても私たちは神の前に立つてユダヤ人のためにとりなしを続けています。そしてそれは、「主がエルサレムを堅く立て、この地の誉れとするまで。」（イザヤ書 62 章 7 節）続くのです。

EBENEZER INTERNATIONAL CONFERENCE

Jerusalem 17-22 November 2024

Light in the Darkness

Isaiah 60:1-2

Booking Information : www.ebenezer-oe.org/events

BOOKINGS
OPEN



EBENEZER
OPERATION EXODUS

DO YOU USE TELEGRAM?



FOLLOW OUR PUBLIC CHANNEL
& NEVER MISS AN UPDATE!



OR
Use the search function
inside the Telegram App:
Ebenezer Operation Exodus

Launching: Children's work!



Ebi's Adventures

Join Ebi as he learns about God's
love for the Jewish people!

New stories &
activities with
every Bulletin!
Download our
resources now!



www.ebenezer-oe.org/children

ともに働く

イスラエル



イスラエル
シェロミット
イスラエルチーム

アリヤーミニストリーとして、エベネゼルでは世界中のユダヤ人にイスラエルへの帰還を励ます働きをしています。ここでの私たちの働きは、帰還した彼らがここになじみ、適応できるように助ける働きです。しかし、過去何年間の間に、主は新しいオリムを支援する以上の働きにおいて私たちを用いてくださっています。

オリムと面会して彼らの必要を聞くことを通して、食料カードや、請求書の支援、職探し、また他の関連ある団体へと紹介するなどの支援をしています。しかし、2020年のパンデミックの間は対面での面会が難しくなったため、食料カードなどは彼らに郵送したりしていました。

その後、ウクライナ戦争が始まった為、私たちは人道的援助物資を集め始めました。難民が到着し始め、彼らをホテルに収容しました。私たちは、そのうち支援の要請で手が回らなくなりました。彼らはただ食料を必要としていたのではなかったのです。彼らは何も持たずに来ていたので、彼らはすべてのものが必要だったのです。服や他の日用品、銀行に行くことや電話の店に行くことなど、すべてにおいて必要がありました。

私たちの予算も限られていました。誰が一番支援必要を要としているのかもわかりませんでした。そこで、私たちは、エルサレム市長の顧問のエレナに会いました。私たちの必要な情報のすべてを持っていたので、私達は、誰が支援を必要としているのか、彼らはどこにいるのか、また何を必要としているのかなどを聞くことができました。私達は

エレナと今日に至るまで協力関係にあります。

その後、10月7日私たちの国全体が衝撃を受けました。ある意味、パンデミックとウクライナ戦争の間に、主は私たちをこの戦争のために整えてくださり、他の団体との協力関係を築き、兵士や避難者を効果的に支援することができるようになってくださったのです。エレナは名前や彼らの具体的な必要のすべてのリストを持っていました。それで私たちはその必要に応えることができたのです。この働きを可能にくださったすべての献金をささげてくださった方たちに感謝いたします。

私はこの働き的一端を担うことができることを特権だと感じています。その働きが、避難者がユダヤ人の祭りを祝うことを助けたり、家から追われた人々のために服や食料を買うことだったり、またロシアからアリヤーしたばかりの家族が、ガザで兵士として仕えている息子に会って、一緒にバーベキューする助けであったりであっても。

私たちは主の御手が働いて、次から次へと起こる災害の中でも私たちを整えてくださっているのを見えています。私たちは、主が必要を満たし続けてくださり、アリヤーの主ご自身の目的が成就されていくことを信頼しています。

どうかお祈りください

- ✓ 私たちの深く傷ついた国の癒しのために
- ✓ IDfと疲弊した兵士たちのために
- ✓ エルサレムとハイファにいるエベネゼルチームのために



Operation Exodus
Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
paginamaestro@hotmail.com
http://eefj.org
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25 カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。